

研究室紹介

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 農林総合研究所 病虫部

青森県産業技術センターは青森県の農林水産部門、工業・食品加工部門の研究機関が平成21年4月に地方独立行政法人として統合、発足したものです。農作物に関する試験研究開発は、農林総合研究所（黒石市）、野菜研究所（六戸町）、りんご研究所（黒石市、五戸町）で行っており、日本海側である津軽地域に2箇所、太平洋側である県南地域に2箇所設置されています。

当研究部が属する農林総合研究所は、水稻をはじめとした土地利用型作物、花き・施設園芸作物、津軽地域で作付けが多い野菜類等を研究対象とし、病害虫に関する試験研究開発のほか、品種開発、原種生産、栽培技術開発等を行っています。敷地面積は88.8haと広大なため、圃場間の移動が結構大変です。職員数は43名、うち研究員は29名在籍しており、法人職員と県からの派遣職員で構成されています。当研究部では部長1名、病害2名、虫害2名、研究補助1名の計6名により、試験研究開発業務や技術指導に係る業務等を行っています。以下に近年の研究内容や成果等についてご紹介いたします。

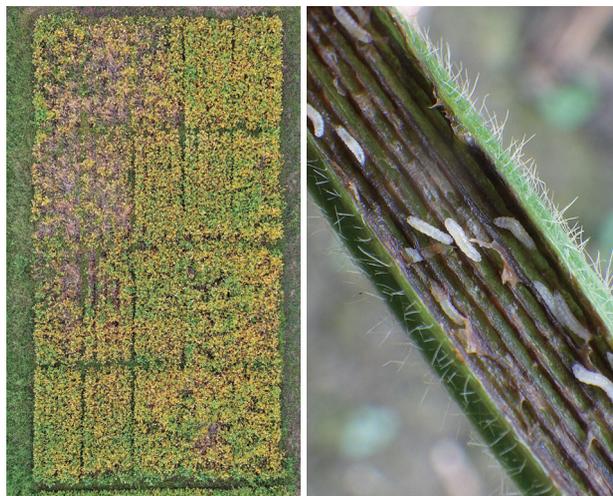
【病害】

青森県で栽培されている主な水稻品種はいもち病抵抗性が強いことから、生産者が防除体系を選択する際の一助となるよう、減農薬防除体系別被害リスクを作成し、意志決定に活用してもらっています。ダイズでは難防除病害である黒根腐病について、亜リン酸液肥の茎葉散布による被害軽減効果について明らかにしました。また、近年の温暖化に伴い増加しつつあるウリ類の炭腐病について、簡易な診断方法を開発するとともに防除対策を検討しています。



農林総合研究所（奥に見えるのは津軽富士こと岩木山）

〒036-0522 青森県黒石市田中82-9
TEL 0172-52-4311



ダイズ黒根腐病試験（左）、ダイズクキタマバエ幼虫（右）

【虫害】

水稻ではアカヒゲホソミドリカスミカメとともに、近年分布が拡大しほぼ全県に広まったアカスジカスミカメについて畦畔雑草管理技術や防除適期等を検討しています。ダイズでは食葉性害虫のIPM技術や、青森県では約80年ぶりで突発的に発生したダイズクキタマバエの生態や被害について検討しています。さらに今年度からは天敵温存植物や間作を利用した露地野菜のIPM技術について農研機構植物防疫研究部門や東北農業研究センター、宮城県農業・園芸総合研究所との共同研究を行っており、北東北におけるIPM体系構築と実証について取り組んでいます。また、青森県で作付けの多いニンニクでは、イモグサレセンチュウや各種病害虫について野菜研究所と協力しながら防除対策などを検討しています。

このほか、新農薬実用化試験、病害虫発生予察事業、病害虫防除指針編成業務、各種研修会等の講師、病害虫診断依頼等、生産者を支援する業務も行ってまいります。

また本年6月には、長年にわたる転炉スラグを用いた土壌pH矯正による野菜類土壌病害の被害軽減技術の開発について、全国農業関係試験研究場所長会研究功労者表彰を部員がいただきました。各関係機関に感謝するとともに、病害虫防除に携わる研究機関として一層身の引き締まる思いであります。これからも生産者に役立つ技術開発により、青森の未来を技術でサポートしてまいります。

（病虫部長 倉内賢一）